

乙 貞

第135号 通巻24巻 第2号

2004年7月1日 発行

守山市立埋蔵文化財センター

Tel・Fax 077-585-4397

〒 524-0212

守山市服部町2250番地

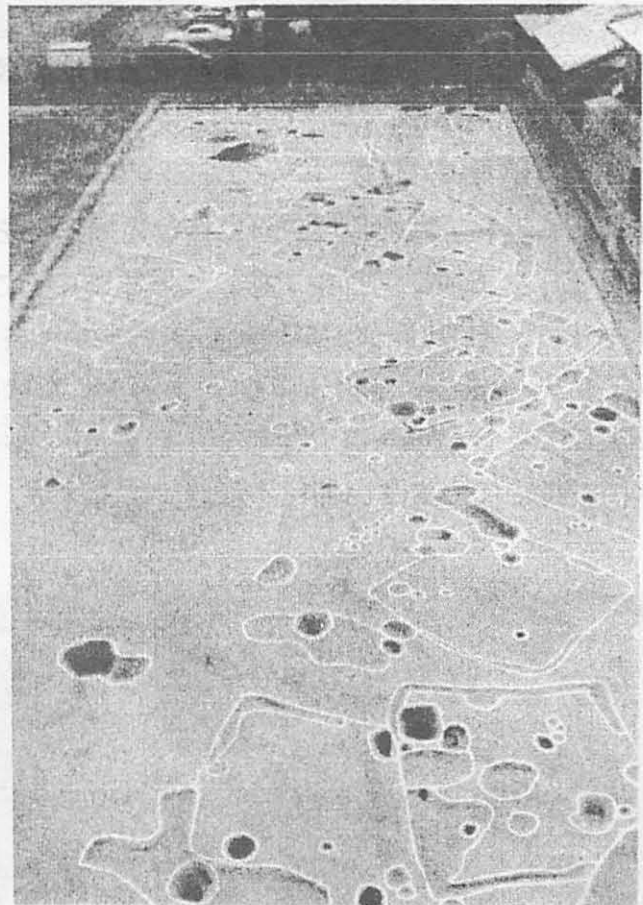
発掘調査だより

1. 吉身北遺跡の調査

梅田町字八ノ坪、中ノ町において、店舗建築に先立つ調査を実施しています。これまでに約1,000㎡の調査を終え、古墳時代後期の^{たてあなじゆうきよ}竪穴住居14棟をはじめ、^{どこう}土坑や建物の柱穴などが見つっています。竪穴住居の平面形は一辺が4～8mの四角い形をしており、ほぼ東西・南北の方向を向いてつくられています。ほとんどの住居の内側には、屋根を支える柱の穴が4つ掘られており、東辺の中央にはカマドが造り付けられていました。また、カマドのすぐ南側には直径1m程の円形や方形の形をした^{ちよぞうけつ}貯蔵穴と見られる大きな穴も見つかりました。この穴は床面から1～2mも深く掘り込まれていました。住居の床はほぼ平らで、中には中央あたりに粘土を貼り足して、堅く踏みしめられたものもありました。壁際には排水用と考えられる浅い^{しゆう}周壁溝^{へきこう}が掘られていますが、いずれも周回せず途切れ途切れになっています。住居の年代は床面や貯蔵穴などから出土した、土師器の甕と須恵器の杯身・杯蓋などから6世紀後半と考えられます。また、住居内からは滑石製の有孔円版・白玉・削り屑やガラス玉も出土しています。

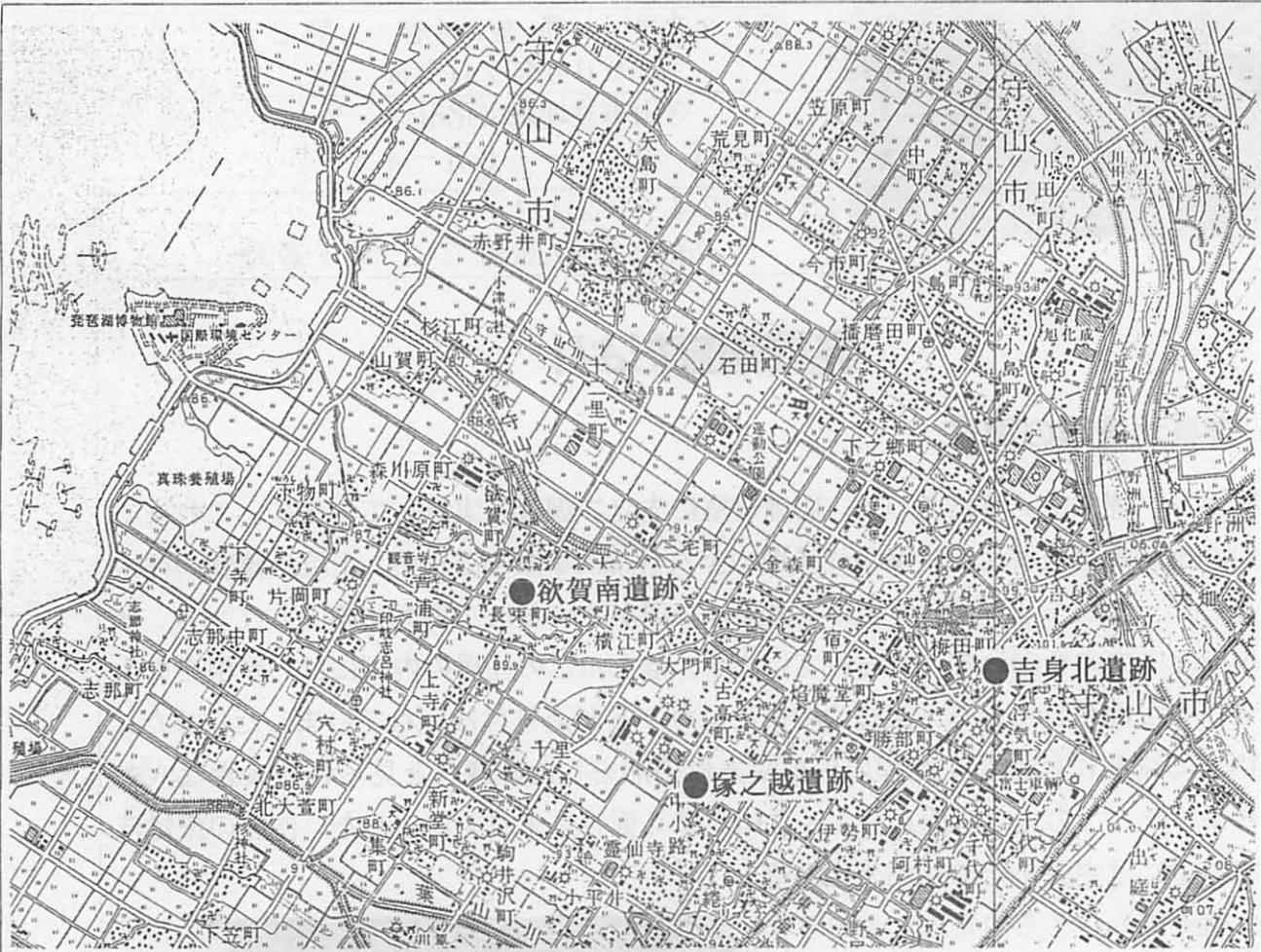
この他、古墳時代後期の井戸も見つっています。井戸は古墳時代の竪穴住居を壊す形で掘られており、やや端に寄った所から丸太を^く削り貫いたとみられる井戸^{いどわく}枠が見つかりました。

今後は残り半分について調査を進める予定です。さらに竪穴住居の検出数が増える^とみられ、より吉身北遺跡の実態が明らかになると期待されます。



(畑本)

吉身北遺跡全景写真

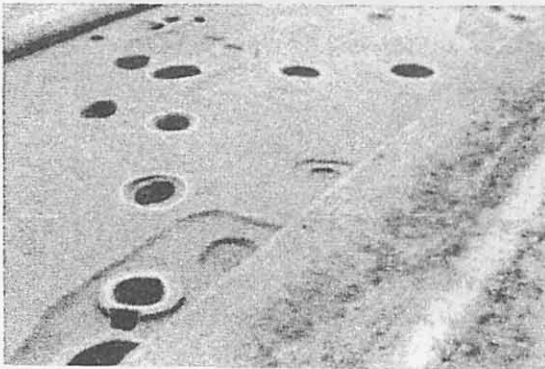


▲発掘調査位置図

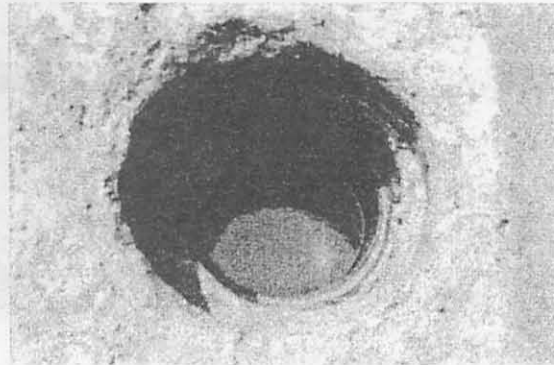
2. 欲賀南遺跡の調査

昨年度に引き続き、区画整理工事に伴う発掘調査を5月から始めています。現在、^{ほしか}欲賀町字大蔵地先の水田地を調査中です。これまでのところ、奈良時代の^{ほったてばしらたてもの}掘立柱建物や平安時代後期の井戸、^{ちゆうけつ}柱穴群などを検出しています。奈良時代の建物は現状で3間×2間以上の規模ですが、約半分が調査地の外にあるため全体の状況は明確ではありません。ただ、昨年度の調査で見つかった^{こがたどうきょう}堅穴住居や^{おびがなく}小型銅鏡・帯金具といった珍しい遺物の出土と合わせ、今後奈良時代の集落の性格を検討するうえで、貴重な資料となると考えています。

(小島)

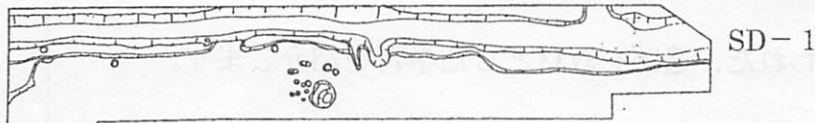


奈良時代の掘立柱建物跡



平安時代後期の井戸跡

3. 塚之越遺跡（18次）・総遺跡の調査

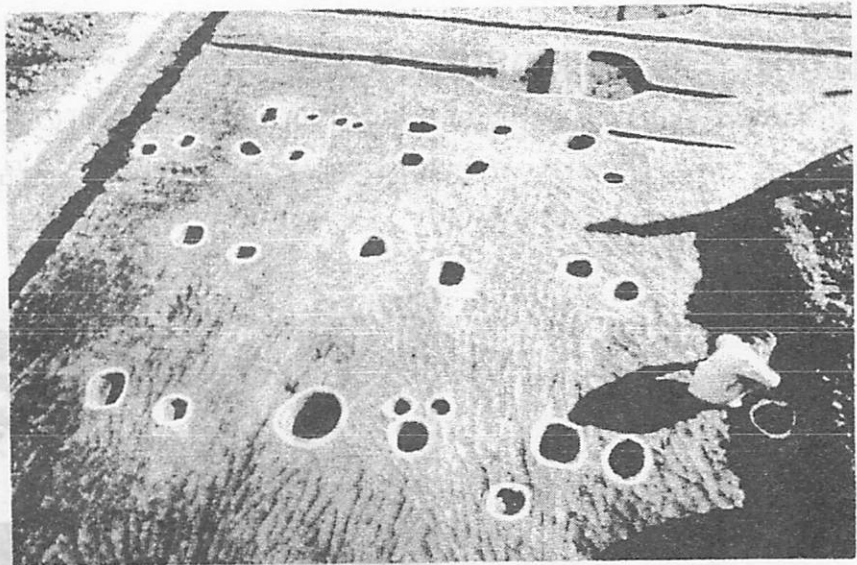


SD-1

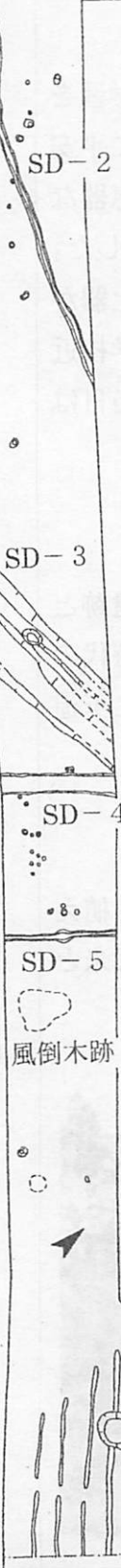
民間の宅地造成工事に伴い、道路建設部分の約 900 m²を対象に発掘調査を実施しました。調査地は守山市の南端、栗東市との境界に面する古高町の水田地で、北側に塚之越遺跡、東側に総遺跡が広がっています。調査の結果、溝 5 条（SD-1～5）、土坑 3 基、柱穴、風倒木痕、耕作痕、掘立柱建物（SB-1、2）などが検出されました。

このうち、調査区の北側で検出された（SD-1）は幅約 2.5m、深さ 50cm の規模で、現在の地割に平行して伸びています。溝の下層には砂が堆積していることから、当時は水が流れていたことが推定されます。おそらく灌漑用に掘削された溝（田んぼに水を引くための溝）と考えられます。溝の中からは鎌倉時代～室町時代にかけての土師器皿や黒色土器椀（内面にススを付けたお茶碗）などが出土しています。また、調査区の東端からは 2 間×2 間規模の掘立柱建物（SB-1、2）が 2 棟重複したかたちで検出されました。同じ場所で建て替えられた可能性があります。建物の時期は現在検討中ですが、鎌倉時代以降のものではないかと考えられます。

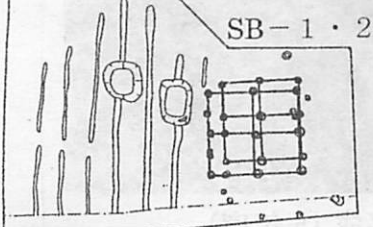
（川畑）



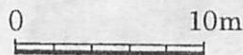
▲ 掘立柱建物跡（SB-1・2）



風倒木跡



SB-1・2



◀ 遺構全体図

埋文トピックス

今号では、市内小中学校で先月行われた、遺跡を教材とした学習を紹介します。

☆小津小6年生、遺跡発掘に挑戦

6月17日（木）、市立小津小学校6年生49名が欲賀南遺跡において、発掘体験学習を実施しました。はじめに、担当者から遺跡や発掘についての説明を受けた後、実際に平安時代の溝跡の発掘に挑戦しました。移植ゴテいしよくを使って土を掘り、次々に土師器や須恵器などの土器を掘り出しました。土器が見つかる度に、あちこちから歓声が上がっていました。児童達が掘り出した土器の重さは全部で約4.5kg。年代は古墳時代から室町時代の土器が見られましたが、多くは平安時代後期のものでした。伝え聞いた児童達の感想は、学校近くに遺跡があることに驚いたり、土器を探す作業が楽しく感じたとのことでした。当日は暑い日にもかかわらず、一生懸命に土を掘る姿がとても印象的でした。

☆守中2年生、守山の遺跡を学ぶ

6月23日（水）、市立守山中学校2年生25名が郷土の歴史を学ぶため、吉身北遺跡と欲賀南遺跡、そして塚之越遺跡を見学しました。吉身北遺跡では、担当者から古墳時代の竪穴住居跡やそこから見つかった土器などの説明に熱心に耳を傾けていました。特に玉造たまつくり関連の資料には多くの生徒が興味深そうでした。

☆吉身小5年生、赤米の田植えを実施

6月25日（金）、市立吉身小学校5年生100人が、下之郷町の実験水田で赤米の田植えを行いました。赤米は玄米のヌカにあたる部分が赤色をしている品種で、一般に古代米と呼ばれています。吉身小学校と教育委員会文化財保護課では、平成17年から地元下之郷町のお年寄り（じいちゃんズ）の指導・協力を得て、赤米の栽培を行っており、今年で6回目になります。当日はあいにくの雨模様にもかかわらず、児童達は泥だらけになりながらも、「じいちゃんズ」の指導のもと、一生懸命に田植え作業を行いました。今から秋の収穫が楽しみです。



赤米の田植え風景（平成15年度）